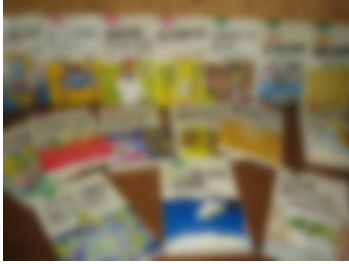


平成 29 年度 5 月号 図書館だより

新学期。勉強に部活に忙しい日々が続いていると思いますが、たまには息抜きに本を読んでみるのもいいかもしれません。そこで、今月号は新任の先生方のおすすめの本を紹介します！



「ブルーバックスシリーズ」

物理関係のもので相対性理論、アインシュタイン等手当たり次第に書店で購入し、読んでいました。高校時代は興味を持ったものを乱読するのもよいかと思います。併せて、矢野健太郎の随筆もよく読みました。これは現在の仕事に大きく影響を与えているようです。

横尾浩一先生(校長)

「本気」 著：相田みつを

生き方に迷ったとき、わかりやすい言葉、親しみやすい文字で生きる勇気を与えてくれる詩集です。彼の作品は、色紙やカレンダー、絵はがきなど色々なところで目にする事が出来ますが、今回はタイトルにもなった作品「本気」が収録された本書をおすすめします。皆さんの疲れがさわやかなものでありますように。

富永孝昭先生(教頭)



「女生徒」 著：太宰治

この作品をおすすめする理由は、作品全体を通じて、ある女学生の一人称による語りの文体で書かれているので、同じ年頃にあたる小山城南高校の生徒は、きっと共感する部分が多く、親しみもわくのではないかと思ったからです。その他にも、女学生の豊かな感性やどこことなく感じられる上品さを味わってもらいたいと思います。

中村裕香先生(国語科)

「風が強く吹いている」 著：三浦しをん

とにかく“三浦しをん”は面白い。そのきっかけとなったのがこの本です。内容はフィクションですが、箱根駅伝の出場を目指す若者が、不器用だけれども目標に向かって真剣にひたむきに自分の限界に挑む姿を描いたものです。涙あり笑いあり、そして最後は希望がみられ、感動のクライマックスへ。読み終わるといつしか自分もとにかく一生懸命生きてみようと思わせる本です。ぜひ一読を。

飯塚潤子先生(家庭科)



「ちょっと今から仕事やめてくる」 著：北川恵海

ブラック企業にこき使われて心身ともに疲れ果ててしまった主人公の隆は、謎の男「ヤマモト」と出会う。彼に出会って元気を取り戻していく隆だが、いったい「ヤマモト」が何者なのか。そして少しずつ自分の生き方を見つけていく隆。人生の選択について深く考えさせられる本で、今悩んでいる人や、これから社会に出ていく人に読んでもらいたい一冊です。

佐藤美咲先生（数学科）



「ぼくは勉強ができない」 著：山田詠美

皆さんは「山田詠美」という小説家であり漫画家を知っていますか。知る人は少ないようですが、栃木県出身です。初めて彼女の作品に触れたときは、電気ショックに似た衝撃がありました。鋭い切り口で始まるプロローグからどんどん吸い込まれ、気が付くとのめりこむように読んでいる自分がいたのです。彼女独自の感性や視点で描かれる文章は、今までの常識を一掃するものがありました。どの作品もおすすめですが、エロチシズム的な内容が多いので、読み手によっては、ちょっと注意が必要です。一読した瞬間からあなたも山田詠美ワールドにはまってしまうかも知れません。「ぼくは勉強ができない」をはじめ、時代を風刺する姿勢や、彼女の体験から暴かれる作品まで、読み応え満載です。

新井淳子先生（体育科）



「海賊と呼ばれた男」 著：百田尚樹

戦後、世界の石油市場を牛耳る強大なアメリカ資本の石油会社に、弱小な日本人の石油会社は次々と吸収された。しかし、日本人として果敢にそれに立ち向かい、石油会社を創業させた男がいた。髪をなびかせた赤い太陽神（アポロ）の横顔がシンボルマークの石油会社だ。世界を相手に日本人の誇りを貫いた男の物語。映画化もされたし、コミック版もある。

多賀谷弘先生（体育科）





「置かれた場所で咲きなさい」 著：渡辺和子

人は生きていく中で、悩んだり、迷ったり、苦しんだりする。そのようなときに、著者がどのように考え、振る舞うことでそのつらい状況を解消し、充実した人生にしているかが書かれている。教科書の勉強だけでは決して得られない、人が幸せに生きる上での大きなヒントが豊富に書かれており、狭い人間関係の視野を広げる良書だと思います。

渡辺光先生（理科）

「影の地帯」 著：松本清張

白昼の美しい信州、また、夕暮れ時の悲しい信州を舞台に次々に起こる不気味な事件。社会推理小説であるが、冒頭からドキドキさせられ、引き込まれていく。昭和の時代を感じさせるリアルな情景描写や人の心をとらえた人間描写はとても素晴らしい。事件のトリックもさることながら、最後まで緊張感のある作品だ。清張の作品の中では異色の展開であり、結末もまた味わい深い。

増山秀則先生（数学科）



「レヴォリューション No.3」 著：金城一紀

化学教師からの「君たち、世界を変えてみたくないか」という問いをきっかけに、落ちこぼれ男子高校生たちが「魔法」でも「特殊能力」でもなく「無謀さ」と「有り余る体力」だけを頼りに自分たちを取り巻く退屈な日常を変えてゆく。ラストはきっと彼らの仲間になった気持ちで本を閉じることができるはず。岡田准一主演で映画化された『フライ・ダディ・フライ』を含めたシリーズ3作品も、きっとみなさんに「刺さる」と思います。

岡崎嵩先生（国語科）

図書館では、話題の本、進路の本、雑誌等、様々な本をそろえています。

皆さんのお越しをお待ちしています！

製作者 2-5 図書委員

